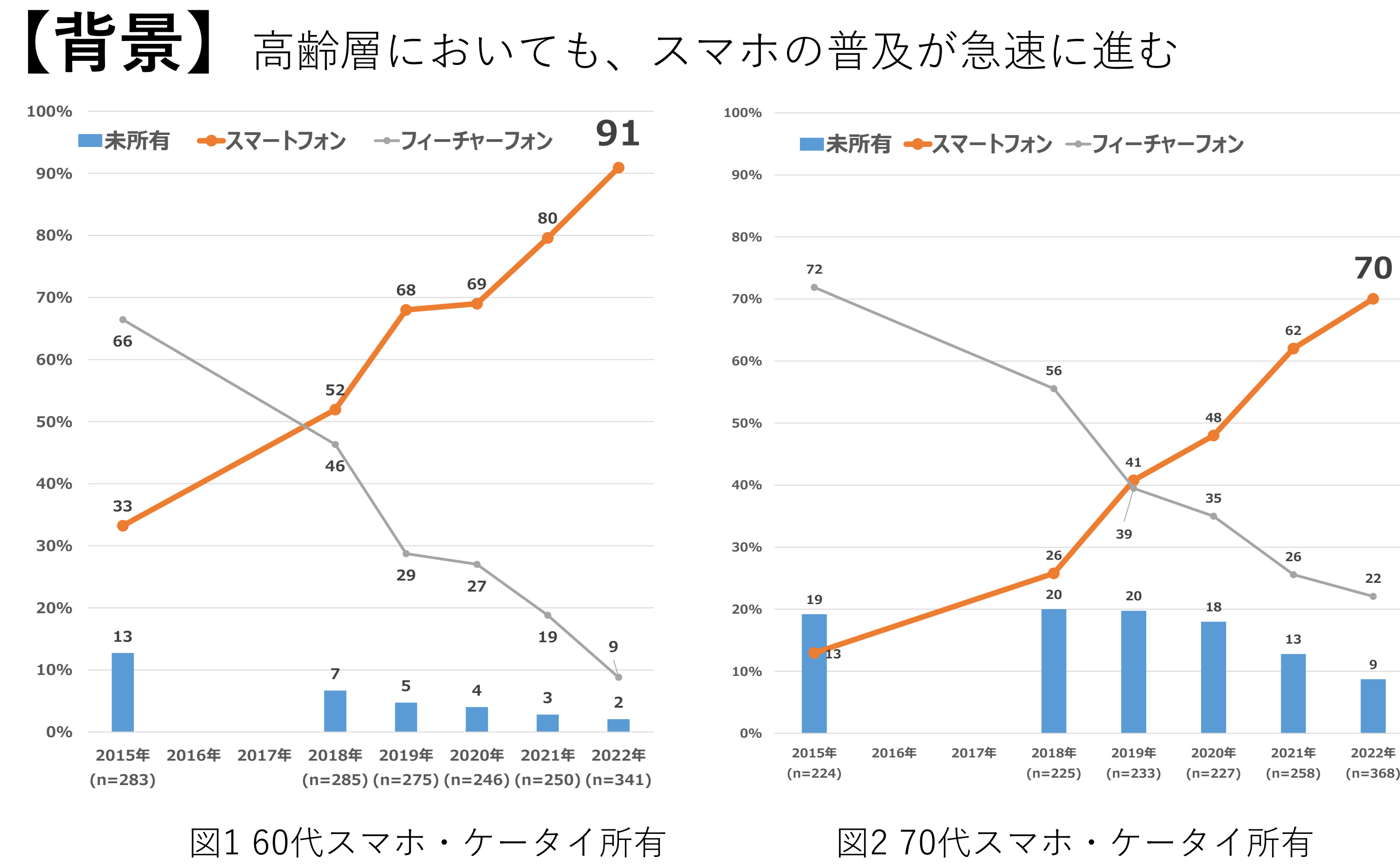


【目的】 高齢層（本稿では60代、70代を対象とする）の中で、ICTサービスを「利活用している人」と「利用していない人」の特性を明らかにする



- ・高齢者がインターネットを友人や家族とのコミュニケーションに利用する人は健康自己評価、幸福感がともに高い1).
- ・ただ、高齢者のネット利用が増加しているのは、同じ出生コホート内で利用率が増えているのではなく、利用率の高い若いコホートの入替に伴う見かけの増加に過ぎない2)

【調査概要】

- ・関東1都6県に在住、60・70代
- ・性年齢及び居住地の都市規模に応じて割付
- ・訪問留置法を用いて実査
- ・2021年1月、サンプル数は506.

【分析の流れ】 ICTサービス利用の有無等を基に、
①因子・クラスタ分析を実施。
②所属クラスタを目的変数とした数量化理論第Ⅱ類分析により、ICTサービス利用傾向とユーザ属性との関係を考察。

【倫理的配慮】 当調査は、調査員が回答者に対し、調査内容の説明等を実施し、承諾を得た方のみに回答を依頼

【調査結果】 ICT機器で利用する14のサービスを利用の有無
「情報検索」は8割、「メール」は7割を超える利用率

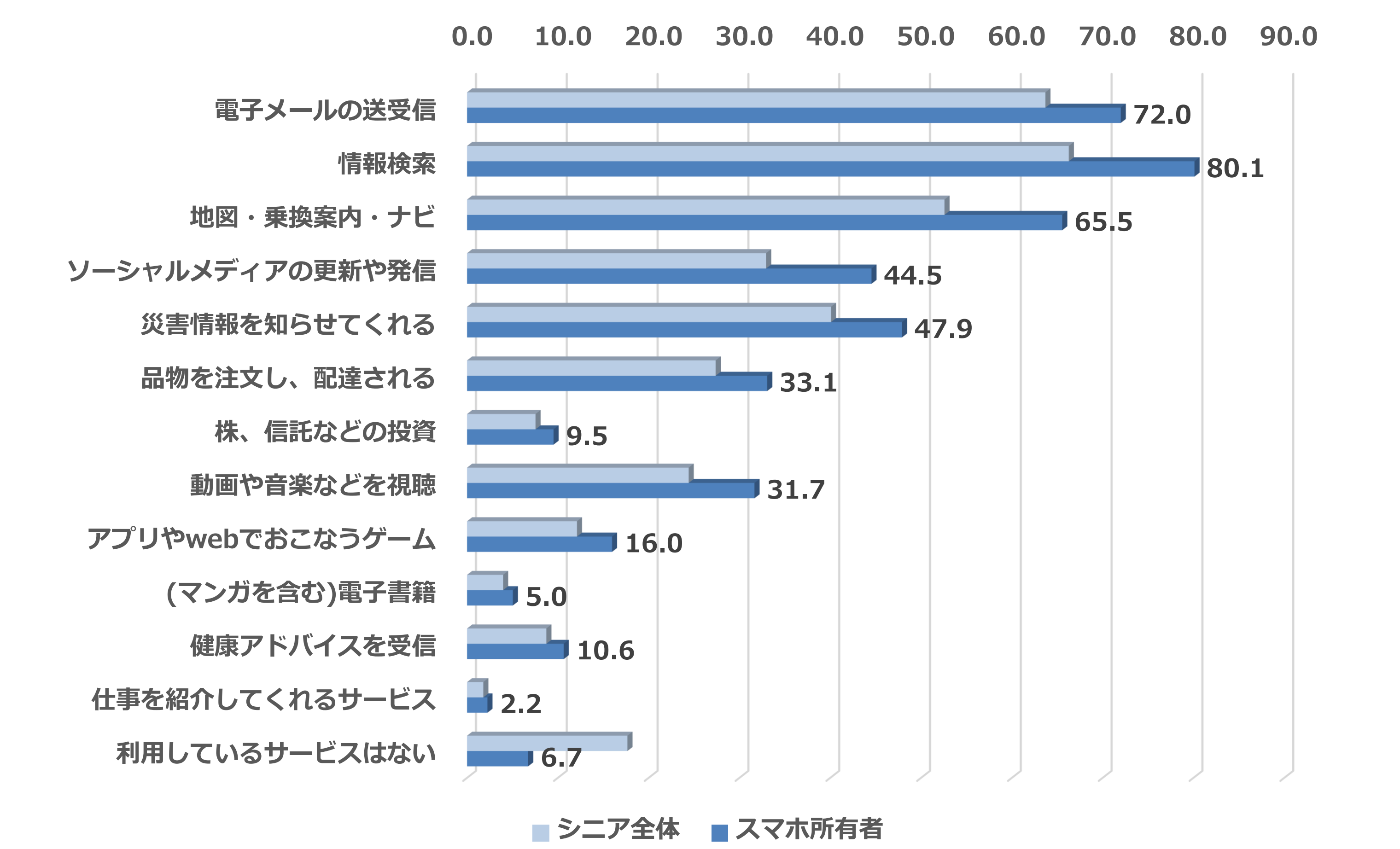


図3 シニアのICTサービス利用状況

《因子分析》

第一因子「基本サービス」、第二因子「応用サービス」を抽出
表1 因子分析結果

	基本	応用
情報の検索	0.80	0.25
地図・乗換案内・ナビゲーションサービス	0.74	0.37
電子メールの送受信	0.38	0.33
アプリやwebでおこなうゲーム	0.26	0.21
動画や音楽などを視聴できるサービス	0.30	0.58
ソーシャルメディアの更新や発信	0.35	0.56
品物を注文し、配達されるサービス	0.32	0.49
災害情報を知らせてくれるサービス	0.27	0.36
健康に関連したアドバイスを受けることができるサービス	0.09	0.34
株、信託などの投資ができるサービス	0.16	0.28

因子抽出法: 主因子法
回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

《クラスタ分析》

二因子を基にクラスタ分析を実施。二因子ともに正の値「積極派」、基本サービスのみ正の値「ベーシック」、二因子とも負の値「消極派」

		クラスタ		
		ベーシック	消極派	積極派
因子	基本	0.56	-1.13	0.57
	応用	-0.40	-0.38	1.08
サンプル数		202	168	134
構成比		40.1%	33.3%	26.6%

《数量化理論第Ⅱ類》

目的変数・・クラスタ分析結果より3群
説明変数・・ライフスタイル、ICT関連、属性 12変数

判別的中率は80.2% 相関比 $\eta^2=0.24$ (1軸)
判別グラフより1軸は2群：消極派と3群積極派に分ける

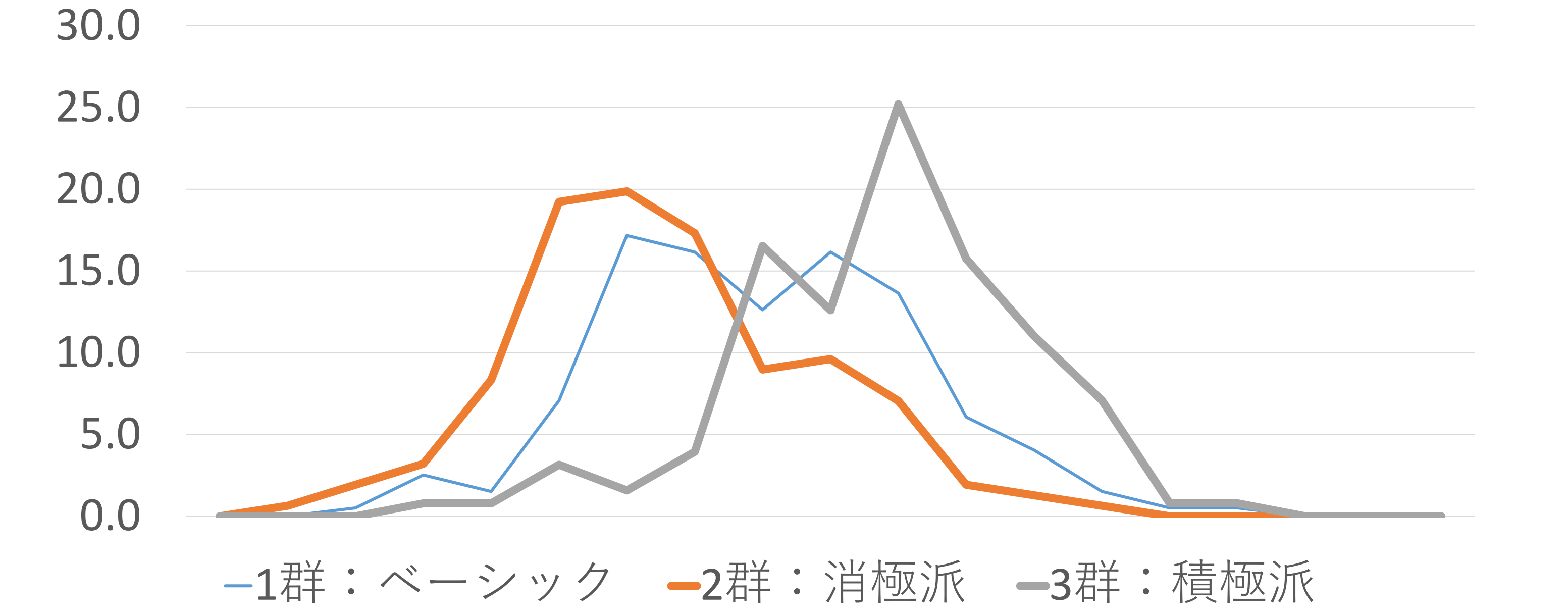


図4 判別グラフ(1軸)
消極派<<==>>積極派

説明変数	偏相関係数	カテゴリ名	n	-1.0	-0.8	-0.6	-0.4	-0.2	0	0.2	0.4	0.6	0.8
日々の活動	0.23	積極派	59									0.6	
		教室でいきいき	68									0.6	
		地域で活躍	56									0.4	
		仲間家族と交流	128										
		消極派	170				-0.3						
年代	0.22	60代前半	115									0.6	
		60代後半	124								0.2		
		70代前半	130										
		70代後半	112			-0.7							
									0.0				
イノベータ	0.20	高い	113								0.3		
		中間	186								0.3		
		低い	182			-0.5							
時間的ゆとり	0.13	ある	187								0.1		
		ある程度	203						-0.3				
		あまり・ない	91								0.3		
職業	0.12	正規	60								0.3		
		自営	73								0.2		
		パート・バイト	98								0.2		
		専業主婦・主夫	108										
		無職	142						-0.3				
別居家族	0.11	子	149								0.1		
		孫	242								0.0		
		その他	64								0.0		
		いない	26			-0.9							
即時遅延	0.11	即時	55								0.6		
		中間	229						-0.1				
		遅延	197						-0.1				
経済的ゆとり	0.09	ある	36								0.0		
		ある程度	240								0.1		
		あまり	140						-0.2				
		ない	65						-0.1				
同居家族	0.08	子	143								0.2		
		孫	46										
		配偶者のみ	233						-0.2				
		独居	59						-0.2				
都市規模	0.05	政令指定	179								-0.1		
		20万人以上	103								0.0		
		10万人以上	97								0.2		
		10万人未満	102								0.0		
同調個性	0.04	同調	131								-0.1		
		中間	206									0.1	
		個性	144								-0.1		
性別	0.02	男性	235									0.0	
		女性	246								0.0		

図5 カテゴリースコア

【考察】

- ・ICTサービス利用「積極派」は、年齢（若年）より「日々の活動」の関係性が強い
- ・「日々の活動」の中で「地域活動」或いは「カルチャースクール」のどちらか一方でも参加している人、すなわち何かしらの組織に属している場合にICTサービス「積極派」の傾向
- ・今後、シニア全体へのICTサービス利活用を考えると、「日々の活動」において（外部組織に属していないが人との交流が活発な）「仲間家族中心派」、（人との交流もあまり実施していない）「消極派」への浸透が必要

【参考文献】

- 1)大田ら(2022)高齢者のインターネット利用と健康・幸福感の関連-JAGES2016横断研究-『老年社会科学 第44巻第1号』
- 2)深谷ら(2020)高齢者のICT利用状況の変化要因について『第67巻第7号「厚生」の指標』

◇ご案内◇

調査結果は弊所HPで公開『モバイル社会研究所』で検索

